

**製品名: PLK1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81159**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ICC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	ICC 1:20-1:50,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	68kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PLK1
別名	PLK; STPK13
遺伝子 ID	5347.0
SwissProt ID	P53350
免疫原	大腸菌で発現したヒト PLK1 (AA: 331-508) の精製された組み換え断片。

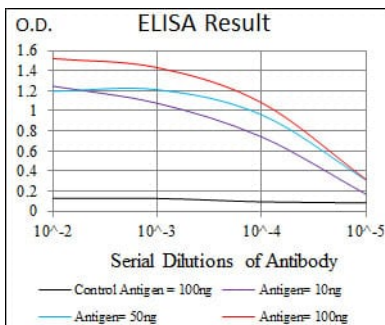
**背景**

PLK1 は、中心体成熟の開始に極めて重要です。ポロ様キナーゼ (PLK) は、細胞周期の進行、有糸分裂、細胞質分裂、および DNA 損傷応答の重要な制御因子である 4 つのセリン/スレオニンタンパク質キナーゼのファミリーです。PLK1、-2、-3 は普遍的に発現し

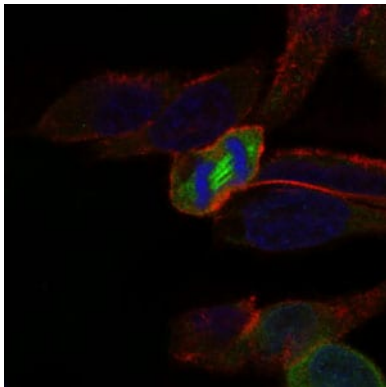
ていますが、PLK4は精巣や胸腺などのいくつかの組織に限定されています。PLK1、-2、-4のmRNAおよびタンパク質発現は、細胞周期の進行中に協調的に制御されますが、PLK3のレベルは他の3つのファミリーメンバーとは独立しています。さらに、PLK3はPLK1、-2、-4よりもはるかに安定したタンパク質です。PLK1はこのファミリーの中で最もよく特徴付けられたメンバーであり、細胞の有糸分裂の進行を強く促進します。有糸分裂のさまざまな段階で、PLK1は中心体、動原体、中心紡錘体に局在します。PLKは様々なヒト癌において制御不全に陥っています。PLK1の過剰発現は細胞増殖および予後不良と関連しています。PLK2およびPLK3は、チェックポイントを介した細胞周期停止に関与し、遺伝的安定性を確保します。これらの酵素の機能喪失変異は、がん化につながる可能性があります。

## 研究分野

## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



PLK1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。